

キャンプファイヤー

1 活動の目的、効果

(1) 体験活動上の効果 ◎集団行動・規律 ◎仲間づくり・協調性 ◎自主性・創意工夫

○阿蘇の自然に親しむ ○阿蘇の文化に親しむ

(2) ESD の課題解決に必要な 7 つの能力・態度

⑥つながりを尊重する態度 人・もの・こと・社会・自然などと自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度

2 活動の詳細

概要 (セールスポイント)		自然の中で炎を囲み、歌やレクリエーションなどを行うことで連帯感や友情を深めることができます。 日程の始めの方で実施すれば緊張をほぐし、親睦を深める効果があり、最後に実施すれば研修のまとめや自己を深く見つめる場になります。						
諸条件	実施形態	指導可能（有料） 団体での自主活動も可能 （自主活動でも 安全指導は必須:無料 ）			提出書類	食事・教材注文票（ろうそくの注文）		
	必要経費	【指導依頼をした場合】 一律 6,000 円 + 薪代(1,950 円) 【自主活動の場合】 薪代(1,950 円) ※井桁用 650 円・中詰め用 1,300 円(2 箱)			所要時間	【安全指導】20 分 【リハーサル】45 分 【本番】1.5～2 時間 第1部 迎え火のつどい 第2部 交歓のつどい （レクリエーション・出し物） 第3部 送り火のつどい		
	活動場所	キャンプファイヤー場 草原ファイヤー場			対象・人数	【キャンプファイヤー場】90 人程度まで 【草原ファイヤー場】300 人程度まで		
	事前下見	なし	実施時期	春～秋	天候	晴天時のみ（強風不可）		
準備するもの	青少年交流の家で貸し出し可能な物				団体で準備する物			
	・灯油 ・火の神衣装 ・薪割セット(鉈・土台・ハンマー) ・音響機器 ・懐中電灯 等				【事前】・係の選出（展開例参照）※必須 ・せりふの確認と練習 ※必須 ・2部の出し物の準備 ※自主活動の場合 ・ファイヤー用薪 ※注文必須 【当日】・トーチ ・軍手 ・燃えにくい服装で ・出し物で必要なもの			
役割分担	指導ありの場合				自主活動の場合			
	1 準備、安全指導 キャンプファイヤーの組み立て 2 リハーサル （夕食等） 3 キャンプファイヤー実施 指導形態 A) 第1～第3部 B) 第1・第3部のみ C) 第2部のみ 4 振り返り、片付け				交流の家職員主導で 16：20 までに安全指導・準備開始 1 物品の貸出・準備・安全指導 ①貸出物品の確認、機材操作の確認 ②トーチの扱い方について ③火の管理について ④片づけについて（灰の処理） 2 リハーサル ※交流の家職員で対応可能 （プラス 45 分程度必要） 3 キャンプファイヤー実施 4 片付け、物品の返却。			

3 活動のふりかえりのポイント

視点:「人との関りや今までの生活を振り返り、これからの生活について考えることができたか」

4 SDGs で目指す姿

 4 質の高い教育をみんなに	4.7 2030 年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化の持続可能な開発への貢献の理解の教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために必要な知識及び技能を習得できるようにする。 ・自分自身や様々な人との関りについて振り返り、これからの生活などについて考えることで連帯感や友情について考える姿。
--	--

5 その他

(1) キャンプファイヤー用薪の料金は、【中詰め用 30 c m】 1 箱 650 円、【井桁用 60cm】 1 束 650 円です。

1 回につき【中詰め用 30 c m】 2 箱、【井桁用 60 c m】 1 束を目安にご注文ください。

※当日実際に使用した分だけのお支払いとなります。

(2) 必ず、トーチをご準備ください。

トーチの作り方は、次ページ以降をご覧ください。

トーチ (角材使用)
※竹不可



(3) 係の役割分担

係名 (人数)	第1部	第3部	備考
火の神 (1~2)	入場・言葉・献火・点火・退場		
火の長 (1)		言葉・受火・分火	団体の代表者が好ましい
火の司 (1~2)	ナレーター		
火の守 (5~10) ※		受火・献火	例) 班から1名ずつなど

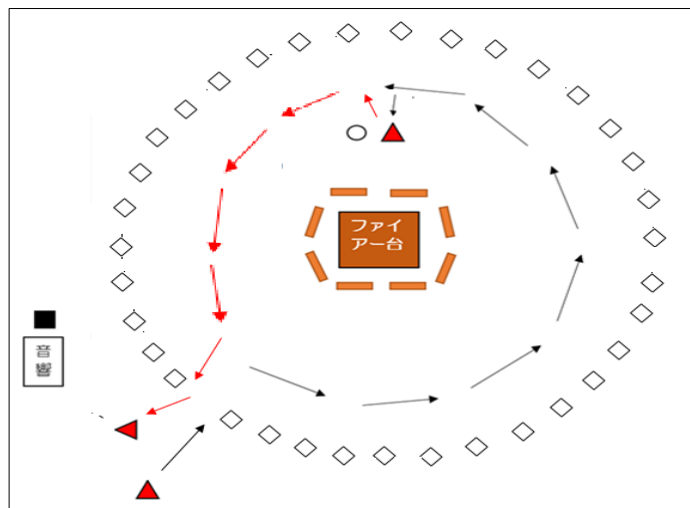
※キャンプファイヤーは決められたシナリオだけに頼らず、団体ごとで決めた動きやセリフの練習が重要です。

あらかじめ十分な打ち合わせを団体内で行い、係に選出された人は十分な準備・練習を行いましょう。

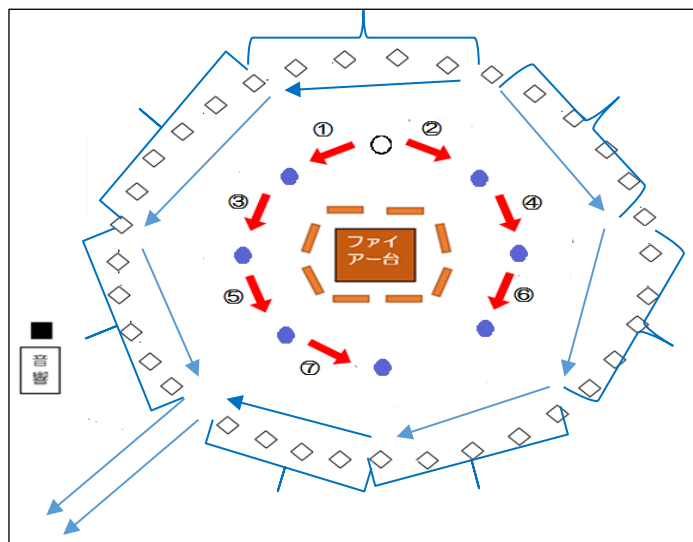
※屋外で夜間に行うため、紙を見ながら行うことはできないと考えてください。

(4) 会場イメージ

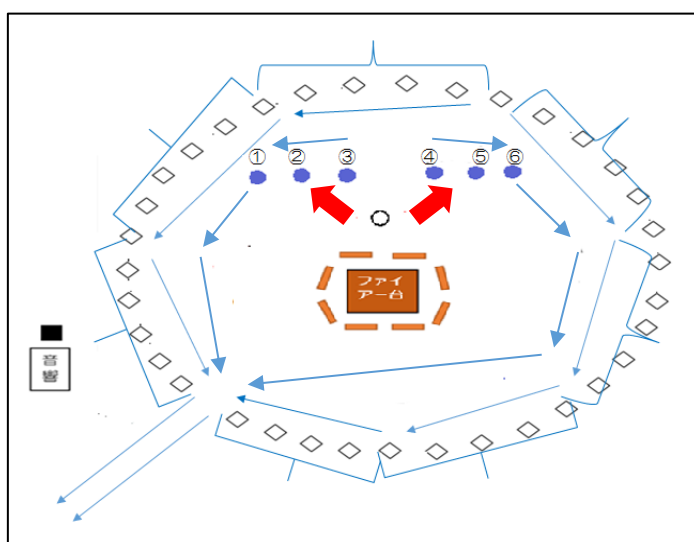
《第1部》



《第3部 Aパターン 円座》



《第3部 Bパターン 直線》



【展開例】

(1) 第1部 迎え火のつどい ※静かな雰囲気の中で行う

全体の流れ	役割分担	せりふ、(例) など
①開会	火の司 全員 火の司	ここ、阿蘇の地には、火山や草原、水源など雄大な自然が広がり、その自然は私たち人間にたくさんの恵みを与えてくれています。 大昔から、阿蘇に住む人たちは、阿蘇の山々を『神様の住む山』、火山から生まれる火を『御神火』として大切にしてきました。 この豊かで美しい自然と生きている大地に囲まれた、ここ、阿蘇青少年交流の家も、また一日が終わろうとしています。 自らの向上を願い、お互いの友情を深めようとして集まった（団体・学校名等）のみなさん、これよりキャンプファイヤーを始めます。 歌「(例) 遠き山に日は落ちて」をみんなで歌いましょう。 ※歌は各団体で決めていただいてもかまいません。 ○歌を歌う。（2番はハミング） ○ハミングが始まったら まもなく、『御神火』をたずさえた火の神の入場です。みんなで 静かに迎えましょう。」
②火の神の入場	火の神	○火の神がトーチをもって、入場し、くると半周回って、火の長の横につく。
③火の神の言葉	火の司 火の神	ここで、火の神よりお言葉をいただきます。 （各団体で考えていただいてもかまいません。） （例）…私は、ここ阿蘇の山に住む火の神である。 今夜は〇〇〇（団体・学校名等）が、この阿蘇青少年交流の家で、キャンプファイヤーをすると聞いたので、山から下りてきました。 皆さん、この闇の中で、私の持つ火を静かに見つめてください。 火は、遠い昔から人間だけに与えられた宝物です。これまでの人間の歩みのたくさんの場面で、火によって、私たちの命は守られてきました。 しかし、この偉大な火が時には人の命を奪い、使う人の心により人類を闘争と破壊へと導いてしまったことも事実です。 私たちは、火を正しく使う心を忘れてはいけません。 今、ここに燃える火は、ここに集う私たちに、大きな勇気と自信を与えてくれ、私たちを正しく導いてくれるものと信じます。
④点火	火の司	それでは、火の神によって、火がともされます。 ○火の神がトーチからキャンプファイヤーへ点火する。
⑤火の神の退場	火の司 全員 火の神 (大人)	今、火がともりました。この火がもっと大きな炎となるように、歌「(例)燃えろよ燃えろ」を歌いましょう。 ※歌は各団体で決めていただいてもかまいません。 ○歌を歌う。 ○歌が始まったら、トーチを持ったまま、退場を始める。 ○火の神がある程度のところまで来たら、トーチを受け取り消火する。

(2) 第2部 交歓のつどい (レクリエーション・出し物) ※明るく楽しい雰囲気で行う

各クラス、チームの出し物やレクリエーションなど行う。

※ 指導依頼をされる場合は、交流の家職員がレクリエーションを行います。

※ 活動中は、ファイヤー台に近づかないように注意しましょう。

※ 後半は、薪の追加を行わず、火を小さくしていきましょう。

※ 最後には、静かな歌やダンスをして隊形を整え、第3部への導入をする。

(3) 第3部 送り火のつどい ※静かな雰囲気の中で行う

全体の流れ	役割分担	せりふ (例)
①第3部の開始	火の司 火の長 火の守① 火の長 火の守② ~	とても楽しいひとときでした。しかし、もう夜もおそくなってきました。そろそろこの場所を野生の動物たちにゆずりましょう。」 それでは、火の長より火の守へ『御神火』を分火いたします。 ここに集う皆のものに神聖な火を与える。 ●● (火の守①の名前、またはクラス・グループ名)、汝に▲▲の火を与える。 ○火の守①のトーチに火をつけていく。 私たちはこの火に、○○○○・・・を誓います。 ◆◆ (火の守②の名前、またはクラス・グループ名)、汝に■■の火を与える。」 ○火の守②のトーチに火をつけていく。 《A パターン》 … 火の守：円座 火の守③以降は、長のセリフの後に、隣の火の守のトーチから火をもらう。 《B パターン》 … 火の守：直線 火の守③以降も、火の長から直接火をもらう。 ※会場イメージ図を参考にしてください。 ※分火する火の名前は、各火の守の誓いの言葉を参考に決めてください。 ※火の守の人数は、クラス単位、グループ単位など、実施団体に決めてください。 ※火の守の人数分、トーチが必要です。 (以下、参考にしてください。) 汝に協力の火を与える。 私たちは、この火に、みんなて協力して助け合っていくことを誓います。 汝に友情の火を与える。 私たちは、この火に、仲間を大切に、チームワークを高めていくことを誓います。 汝に努力の火を与える。 私たちは、この火に、目標に向かって精一杯がんばることを誓います。 汝に健康の火を与える。 私たちは、この火に、強い心と丈夫な体を作ることを誓います。 汝に尊敬の火を与える。 私たちは、この火に尊敬する心を持つことを誓います。 汝に思いやりの火を与える。 私たちは、この火に思いやりの心をもつことを誓います。 火の司 今、それぞれの火の守に火が分けられました。
②まとめの言葉	火の司 火の長	ここで、火の長より言葉をお願いします。 (研修のまとめになるようなお話を)
③閉会・退場	火の司 火の司	楽しいキャンプファイヤーの時間もいよいよ終わりとなりました。 先ほどの火の守の誓い、今の火の長の言葉を忘れず、これからもみんなで、よりよい(団体・学校名等)となれるよう、一步一步進んでいきましょう。 心を1つにし、歌「今日の日はさようなら」をみんなで歌いましょう。 ※歌は各団体に決めていただいてもかまいません。 ○一番を歌い終わったら2番以降ハミング 退場を始めてください。 ○火の長から退場、その後、各火の守を先頭にグループごとに、ハミングしながら退場。 ○火の長・火の守からトーチを受け取り消火する。

キャンフファイヤー

○想定人数 50～60 人

【準備物】

薪(30 cm・60 cm) ロストル トーチ 布 灯油 (少し)
衣装 杉の葉 (枯草・枯れ葉) 薪割セット(鉈・土台・ハンマー)
照明 (ゲームで必要あれば) 音響 (必要であれば)

- 1 60 cm薪【井桁用】
30 cm薪【中詰用】
を受け取る。



- 2 ロストルを受け取り、
レンガの上に並べる。

※燃えカスが落ちない程度のすき間
(空気の通り道)をつくる。



- 3 60 cm薪で井桁(囲い)を
組む。

※30 cm薪を立てて入れてすっぽり入る高さ
※まきの大きさ(幅)を考えて、高さが揃うよう
に重ねましょう。

※「見た目」
薪の向きも
大切です。
意識しま
しょう。



- 4 3 と同時進行で 30 cm薪を
鉈(ナタ)で割る。

※ゴボウからニンジン

くらいの細さを
イメージする。



- 5 組み上げた井桁の中に
30 cm薪を詰める。



- 6 シンボル台(ティピー型)を
組む。

※4 でつくった細い薪を使う。
※三角形の頂点をひもでくくる。



7 シンボル台の中に、杉の葉を詰め、周りを薪で囲む

※4でつくった細い薪を使う。

※点火するための穴を1か所忘れ

ないように空けておきましょう！！



8 完成！

※シンボル台の部分に灯油を少量しみこませておきましょう。(かけすぎに注意！)



ミニキャンプファイヤー (焚き木)

【準備物】

薪(30 cm)

杉の葉 (枯草・枯れ葉)

薪割セット(鉋・土台・ハンマー)

1 薪を受け取る。

2 薪を鉋(ナタ)で割る

※ゴボウからニンジンくらいの細さをイメージする。

3 レンガの内側に割っていない薪2本で土台をつくる

A：井形(四角形)

4 井桁を組む。

※井桁は細く

割った薪を使う。

5 井形の中に杉の葉を詰める



B：ティピー形(三角形)

4 土台の中に、杉の葉を積む

5 積んだ杉の葉の周りに細く割った薪で覆い、三角錐をつくる。



【秘伝 3か条】

- ① 火の調整はファイヤーキーパーに任せるべし！！1～2名です。
- ② 火を燃やしている間には、ロストルの下に何もおかないようにすべし！！
- ③ 自分もキャンプファイヤーに参加しているという気持ちをもって、協力しながら参加すべし！！

トーチの作成手順

国立阿蘇青少年交流の家

〔準備するもの〕

- 木の棒
- ※竹は安全管理上不向きです。
- 雑巾(タオル)
- ペンチ・針金



※ トーチの本数は約10名につき1本、又はグループに1本の割合で作成します。

※ 火の長(火の神)を含めた必要本数を準備してください。

〔手順〕

- 1 木の棒を100cm～110cm
に切ります。



注意:トーチは長すぎず、短すぎないのが基本です。

安全のため短すぎないように特に気をつけましょう。

- 2 持った時に、角でけがをしないようにやすり等で角を丸く整えます。

- 3 雑巾を巻きつけます。雑巾が薄い場合は2
枚使用するか、2つ折にして使用します。

(タオルでも可)

※トーチの先端を雑巾でおおってしまっても
いいです。



- 4 雑巾を針金で巻きつけます。
2・3箇所を強く固定してください。



注意:ひもなど燃えるものを使用しないで
ください。

安全のために、できる限りきつく締めてください。

- 5 完成!

注意:完成後は雑巾が下に落ちてこないか
(固定されているか)確認してください。



【当日の準備】

すべてのトーチをまとめて、下向きにした状態で灯油をかけます。

注意:灯油のかけすぎに注意しましょう。

※点火直前は灯油が垂れやすいので、前もって灯油をつけておくこと
をお勧めします。

